

われら信用金庫

しんようきんこじん

コンサルタント

佐藤 良道

●大好きなコンサルタント業 ～挫折を乗り越え、尊ばれるように天職と出会う

No.62



プロフィール

さとう よしみち

1969年7月王子信用金庫(茨城北信用金庫)入庫
本店営業部、本部経理を経て研修業務を10年間、
腕いて相談業務を18年間担当
2008年3月城北信用金庫退職
2009年4月フィナン・コンサルティング創設

信用金庫や民間企業の講演会などに奔走する毎日。FP業務の王道を極めたい人へ『実践版FP成功の法則』(金融財政事情研究会)では実体験に基づく「達人の技」を披露

今、地元(王子)の企業主を対象とした「パワーハウスメント研修」の準備に追われている。その後は、兵庫県淡路島の農協、次は長野県の信用金庫への「保険窓販研修」と続いている。秋には、「厚生年金基金」をテーマとした研修をする予定だ。本業は、社労士業務を中心とした経営コンサルタント業。年間50数件の講師業と顧問先企業の労務問題の解決策を提案する。この2つが実に楽しく、自分にとって天職と思える。しかし、この職は突然降って湧いたものではない。運に恵まれ、少しは悩み苦しんだからこそ、実現したのだと思う。

今でも苦しかった10代後半から20代前半の頃を思い出す。受験や就職の失敗など、挫折の連続であった。辛うじて某私立大学の文学部に合格したが、希望の専攻ではない。2年次に転部試験を受けたが、すべて不合格。中退するわけにもいかず、不本意ながら心理学を専攻。“取りあえず”カウンセリングを学んだ。これが今の仕事に役立っているから人生はわからない。

進級するにつれ就職を意識するようになった。不本意ながら地図会社に就職したが、上司とトラブルになり3日で退職。その後は、今風に言えばフリーターだ。両親には退職したとは言えず、出勤する振りをして、開通したばかりの東西線の早稲田から西船橋を行ったり来たりしていた。アルバイトをしたが、研修帰りの新入社員らしき人を見ると、羨ましかった。

フリーター3か月後、中途採用をしていた王子信用金庫に拾われるように再就職した。まず、本店に配属となり、間違えばかりして、先輩から何度も叱責を受けた。その頃、当時の会長から「景気は自分で作るものだ」と言われ、深い感銘を受けた。「自己責任を他に転嫁しない」と心に誓った。

4年後、営業店から本部へ異動となり、銀行業務法務検定を受けて運よく金庫内トップで合格。不本意な人事異動となり、営業店には負けれないと思ったのかもしれない。そのことが「知力のない自分でもやればできる」と大きな自信となり、公的資格を武器に差別化を図ることにした。土日のどちらかで専門学校に通い、帰宅後の時間は受験学習に費やした。

のちに、嫁ぐ娘から「お父さんは勉強ばかりして遊んでくれなかったけど、私たち家族のために頑張ったことを感謝しています」と言われ、涙が出た。信用金庫業務に活かせる資格を狙って銀行業務検定の法務・財務・税務2級、宅建、社労士、中小企業診断士(1次)、ファイナンシャル・プランナー技能士1級、日商販売士1級、DCプランナー1級と取得していった。

本部では、事務センター、経理、研修や相談業務を担当させていただいた。上司にも恵まれ、毎月論文の添削をしていただき、研修業務ではインストラクションの技法、相談業務では顧客説明の作法を学んだ。いうまでもなく今の講師業と相談業務の仕事に活かされており、恵まれた金庫人生だったといえよう。

ただそれは、自分から求めたものというより、配属されて職務を果たしていくうちに自ずと扉が開かれていったように感じる。これはどんな職務にも通じるのではないだろうか。この仕事を通して自分をどう成長させていくか、その課題を見つけることである。

私の好きな言葉は「自己実現」「やればできる」「自助努力」。できればこのまま91歳まで今の仕事を続けたい。なぜなら、自分の人生、悔い(91)がないようにと思うからである。それまで健康に留意し、楽しく自己啓発を続けたい。